安全 安心
JAL不当解雇撤回ニュース
No452 号 2015.07.03
発行:JAL 解雇撤回国民共闘事務局
連絡先:航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル内
TEL:03-3742-3251 FAX:03-5737-7819
http://www.jalkaikotekkai.com

支援共闘総会に京セラ株主総会

JAL 京都支援共闘 6 月 23＆24 日と連日の行動

京都の闘いの意義は大きい
総会で引き続き奮闘する決意を確認

6 月 23 日 18 時半から、らぼーる京都にて日本航空の不当解雇撤回をめざす京都支援共闘会議の第 5 回総会が行われました。争議団からは 山口団長、鈴木副団長、小森事務局次長、西岡事務局次長が参加。山口団長が行訴控訴審判決の概要、人員流出が止まらない職場の状況、有事法制と航空の安全について 30 分の報告を行い、他当事者もそれぞれ思いや決意を表明しました。いまだに JAL の名誉顧問として影響力を持っている京セラ稲盛名誉会長のいる京都の闘いの位置づけは大きいとして、京都支援共闘会議としてさまざまな取組みを行うことが確認されました。

株主総会会場＝京セラ本社前で宣伝
代表による要請行動も実施

6 月 24 日 9 時から、株主総会会場の京セラ本社前にて宣伝行動と本社に対する要請行動が行われました。

平日のさまざまな取組みのある中 40 名もの支援者が集まり、通行する株主にアピールを行いました。総会だからとうことで、本社外での要請になりましたが、通常は何も語らない京セラ側が今回は、「行政訴訟の会社対応(最高裁に上告するかどうか)について知っているか？」と尋ねるなど、通常と違う対応でした。

稲盛名誉会長と山口社長による言語道断の暴挙
京セラ株主総会報告

2015 年 6 月 24 日、京セラ本社ビルで株主総会が開かれ、昨年に引き続き出席した。

午前 10 時に総会は 320 席満席で開会され、会社の事業報告が山口悟郎社長よりなされ、質疑に入った。私は議長のほぼ真ん前で「議長！」と最初から挙手したが、全く当たらない。

だいぶたってから JAL 原告が発言できたが、「京セラは日本航空の株の 2.1%を保有している大株主、日本航空の経営が悪くなれば影響は甚大であると考えます。日本航空では 2010 年に整理解雇が行われ・・・」と発言したところで、「当社の事業と関係のない発言はやめてください。後ほど時間をとりますので、そこでやってください」と社長に中断された。

ようやく当てられた私は、『第 61 期報告書』記載の「京セラフィロソフィ教育」に関連して、「昨年の株主総会での稲盛和夫名誉会長の私の発言への答弁への質

問を致します。私の昨年の発言に対し、社長は稲盛名誉会長より先に、『JAL の解雇は、管財人が決めたことだ』と言われましたが、その後に稲盛名誉会長は」と、3 行の原稿を読み上げるまで、「当社の事業展開と関係ない発言はやめてください。」と社長は 3 度も野次をとばす。私が「報告書に記載されていることに関連してであり、去年のこの場の社長・稲盛和夫名誉会長の発言のことである。この会社の事業と関連あるかどうかはあなたではなく、株主が決めることではないか」と反論したところで、「もう長いからやめなさい。退場してもらいます。」と、男性社員 5～6 人で、私を羽交い絞めして会場の外に追い出した。会場内では百人くらいの身内らしき株主が、私に対して野次と怒号の大合唱を行った。

2～30 年前の株主総会ならいざ知らず、今日の大会社の株主総会でこのような暴挙は許されるのだろうか。

私が会場外に出された後、数分で事業報告の承認、事業計画の三点の提案と質疑と承認を終え、株主総会は終了してしまった。

その後、会社役員紹介・会社事業の説明会が同場所で引き続き行われ、勝てないパープルサンガやラグビーのチームを作れなど、「会社の事業展開と直接関係ない」発言などの後でようやく前出の原告が指名され、先ほどの発言の冒頭から繰り返すと、「当社の事業展開と関係ない発言はやめてください。」と社長は何度も怒鳴る。「JAL の大株主ですから関係あります！」と言っても、「これ以上発言を続けると退場願います。」と身内らしき株主の野次をバックに主張するのでやむを得ず、発言を二言三言にまとめざるを得なかった。

最後の頃に、もう一人の原告が発言し、「私はきょう初めてこの株主総会に出席しました。京セラと言えば稲盛和夫さん。このごろ飛行機の事故があいついでいます。私の周りでも飛行機を利用されている方はたくさんいらっしゃいます。お金儲けということで、安全がないがしろにされたらたいへんです。日本航空で大きな事故があったら、京セラにもすごい影響が出ます」とせつせつと訴えられたのは、核心をつき説得力のあるものであった。ところが、「今年は御巣鷹山の事故か

【写真】京セラに要請行動を行う原告と京都支援共闘の代表（6 月 24 日京セラ本社前にて）

【写真】株主総会会場の京セラ本社前で宣伝行動

ら 30 年です」と言ったとたんに、社長は「もう止めてください」と繰り返し、野次も大きくなる中で彼女は「外でビラも配られていましたけど、争議解決して安全な飛行を日本航空ができることが、京セラのためにもなると思います！」と最後まで言い終えた。

会が終了後、発言を止められた原告に株主の女性が寄ってきて、「どうして最後まで質問させないのでしょうか。おかしいですね。それでも質問し続けて勇気があると思い、それを言いたくて待っていました。追い出された方も本当にお気の毒。」と言われたとの事。おかしいと思った株主も多数いたようだ。

数人の株主は「稲盛名誉会長の言葉を聞きたい」と発言したが、一切聞き入れられなかった。昨年の轍を踏まないようにあえて発言をさせないようにしていたのではなかろうか。

いずれにしても、株主の当然の権利を不当に踏みにじり、最低の民主主義の体裁さえもなりふり構わず捨て去って、封建領主よろしく問答無用で押し切るのが京セラ流である。

（JAL 闘争京都共闘・事務局次長・稲村守）